

### Slide 1

T: 僕はトレバー・ボグナと申します

M: ミカエラ・ムセルと申します。

今日は「日本とアメリカの大学生活における音楽の重要性と役割」について発表します。

宜しくお願いします。

### Slide 2

M: これがこの研究の概要です。

### Slide 3

T: なぜこの研究をしたかといいますと、高校の頃に尊敬していた先生と日本の音楽について話したことがきっかけで日本語に興味を持ち日本語を専攻する事にしました。留学した時私が聞いていた日本の音楽と友達が聞いていた音楽とは全く違って、その理由を知りたいと思いました。私はビジネスも専攻していますから日本の音楽産業の事情が分かれば自分の研究にも役に立つのではないかと、と思いこの研究に興味を持ちました。

### Slide 4:

M: 私の場合は、両親がいつも楽器を弾いていた影響で、子供の頃から音楽に興味を持っていました。今はフリーランサーとして日本語で音楽を作っています。5年前日本に留学していた頃日本の音楽会社で働いていた経験があり日米両国(にちべい RYO KOKU)の音楽産業についてもっと知りたいと思いました。さらに、今の作曲活動にも役立てたいと思いこの研究の課題にしました。

### Slide 5

T: こちらは研究質問です。一、アメリカと日本の大学生は日常生活の中でどのように音楽と関わっているのか。二、アメリカと日本の大学生はどのように音楽を入手しているのか。

### Slide 6:

まず研究結果について話す前にこの研究課題の研究背景をはなします。これがその概要です。

### Slide 7

M: まず、はじめに音楽とテクノロジーの歴史をみてみます。ここにあるように1970年から2007年までの間に音楽の聴き方が変わりました。ネットやSpotifyやYoutubeなどの配信サービスにより、現在は音楽が簡単に手に入るようになり、音楽と触れ合う機会がふえました。

### Slide 8:

M:音楽とふれあう機会は様々でNielsenによると52%のアメリカ人は毎年ライブにいきま  
し、日本人も0.3% (れいてんさんパーセント) は毎週コンサートやライブハウスに行くという  
統計(TOUKEI)がでています。世界的にみても、平均、毎週18時間、音楽を聴くことがわ  
かっています。またカラオケ店も日本でもアメリカでもいかにポピュラーかがわかりま  
す。

### Slide 9:

M:では次に大学生はどのような時に音楽を聞くのでしょうか。2004年に行われた岡山大学  
での調査によると学生は、車に乗る時、寝る前、勉強中など音楽はリラックスする時と勉強な  
どに集中する時に聞いていることがわかります。

### Slide 10:

M: これは日本とアメリカとの音楽教育を比較したものです。アメリカの場合は音楽理論と歴史  
に焦点があてられていますが、日本の音楽教育は音楽表現に力を入れています。また日本では  
音楽クラブなどの部活動を通しての音楽教育も盛ん(さかん)です。

### Slide 11:

T: この図に示されているように、1980年から20年間は音楽産業はレコードやCDの売上  
に頼っていましたが、それ以降はiTunesや音楽配信サービスが充実し、レコードやCDの売上が  
衰退しています。

### Slide 12:

T: 現在のレコード会社の役目は人気のあるアーティストと契約をし、音楽の販売、プロデュー

スなどを管理することで収入を得ています。

Slide 13:

T: しかし、レコード会社とアーティストの目標が**相反し**、レコード会社なしに活動するアーティストが最近増えています。

Slide 14:

T: アメリカと日本の音楽産業を比べてみると、日本でのCDの売上はまだ強く、売上の68%はCDの売上ですが、配信サービス、ライブの利益も増加しています。

Slide 15:

M: ではここで私達の研究の結果について発表します。

私達は75人の日本の大学生と75人のアメリカの大学生、合計(GOUKEI)150人にアンケート調査をおこないました。

Slide 16

T: 回答者はアメリカの回答者の方が男性が多く、日本の回答者は女性が多いです。

Slide 17:

M: 40%の回答者が3年生で、その後は2年生と4年生でした。

Slide 18:

T: ほぼ全員の日本人の回答者が小学校と中学校で音楽教育を受けて、アメリカ人はその半分受けました。アメリカ人の方が**独学**で音楽教育を受けました。

Slide 19:

M: では、研究質問1の結果について発表します。

Slide 20:

T: アメリカ人は平均毎週10時間BGMとして音楽を使い、日本人はBGMとして使うのが3時間しかありませんでした。

Slide 21

M: 落ち込んだ時に、どんな音楽を聞くかという質問に対し、アメリカ人が聴くジャンルは様々ですが、日本人は元気と落ち着ける音楽を好むようです。

#### Slide 22

T: 音楽の好みは周りからどのくらい影響を受けているのかに対してはアメリカの学生は友達と家族からの影響を受けますが、日本の学生は友達の影響を受けているようです。

#### Slide 23

M: この図からはアメリカ人の大学生はたいてい一人で歌い、日本人の大学生は一人でも歌いますがカラオケでグループで歌う事も好んでいるようです。

#### Slide 24

T: 普段、どのくらいの頻度で音楽活動に参加しているのか、に関しては両国の学生は、よくコンサート等に行くようです。また日本人の方が、よくカラオケに行くことがわかります。

#### Slide 25

M: 楽器に関してはほとんどの両国 (RYO KOKU) の学生は楽器を全く引かない、又はあまり引かないと答えました。

#### Slide 26

T: ここで研究質問一の結果を要約します。音楽教育は日本人の方がアメリカ人より早い時期に受けています。またアメリカの学生は一人でいる時音楽を聴きますが、日本人は個人でも楽しめますし、カラオケなどのソーシャルアクティビティとしても楽しんでいます。また音楽の選択は日本人は家族より友達に大きく影響されてるということがわかりました。

#### Slide 27

M: では次に研究質問2の結果について発表します。

#### Slide 28

T: どのくらいの頻度で新しい音楽を探すかという質問にはアメリカの学生の方が日本の学生より新しい音楽を探している事がわかりました。

### Slide 29

M:では、どこで音楽を見つけるか、という質問に対しては、アメリカの学生と日本の学生は異なり（ことなり）、80%以上のアメリカの学生は配信サービスと知っている人から音楽を見つけてますが、約90%の日本の学生はYouTubeで音楽をさがしています。

### Slide 30

T: ではどのような方法で音楽を入手するのですが、6割のアメリカの学生はプレミアム配信サービスで音楽を入手し、6割の日本の学生はネットで音楽を買っています。

### Slide 31

M:どの無料配信サービスを利用しているかに関しては Spotifyを使うアメリカ人の学生は65%を上回って、YouTubeを使う日本人の学生は40%を上回りました

### Slide 32

T:一ヶ月にどのぐらいのお金を音楽に使うかに関しては両国の学生とも一ヶ月間に使用する金額は1500円未満です。

### Slide 33

M:一年で音楽のアーティストのグッズにいくら使うのかに関しては69%のアメリカの学生は毎年グッズを買いますが、43%の日本人は買いません。

### Slide 34

M:しかし、グッズに費やす（ついやす）金額（きんがく）は日本の学生の方が高いです。

### Slide 35:

T:ここで研究質問2の結果をまとめますと、両国の学生とも1500円以上音楽に使っていません。また日本の学生はネットで音楽を購入しますが、アメリカの学生は配信サービスで聞いていることがわかりました。一番使われている無料サービスはSpotifyとYouTubeです。さらにアメリカの学生の方はグッズを買いますが、日本の学生の方が使う金額は高いです。

### Slide 36:

M: この研究からアメリカの方が中学からの音楽教育は、日本ほど充実（じゅうじつ）していませんが、アメリカの学生の方が一週間に音楽を聞く時間が長い事もわかりました。それだけ生活において音楽が浸透（しんとう）しているといえます。日本人はアメリカ人と比べてあまり新しい音楽を探しません。それはアメリカの学生は個人の趣味として音楽を聴き、日本人の場合は人との繋がりを大切にするからではないかと思います。さらに、アメリカ人は音楽を買わずに配信サービスを使い、日本人はネット店で音楽を購入します。

T: しかし、日本のCDの売上は現在、高いため、この結果は想定外でした。つまり、このことから日本の音楽産業もアメリカの音楽産業と同じように変化している傾向が見えます。最後に日本人はアメリカ人よりお金を音楽やグッズに使いますが、それは日本人が周りの人に、自分の好きなものを共有したい、とする 日本の文化に、起因しているのではないかとおもいました。

Slide 37:

T: 研究の限界点としては、回答者数がもっと多ければ、より明確な結果が、見えたかもしれません。また回答者の住んでいる場所が、限定されていたため、この結果は一般化できません。

Slide 38:

M: 将来の研究課題は、日米のミレニアル世代の音楽の好みの比較、アメリカと日本の大学生のジャンル、アーティストの好みとその理由の比較について調べてみたいと思います。また、アメリカと日本のSNSと音楽の入手への影響、そして変化する音楽業界（GYOUKAI）と日米のレコード会社への意見の相違（そうい）に関し、もっと深く追求（ついきゅう）していきたいと思っています。

Slide 39:

これが参考文献です。

Slide 41:

最後に指導してくださった方々に感謝いたします。

